



写真1 豊水のみつ症

「幸水」の収穫が終わり、ほっと一息といたきたいところですが、「豊水」「あきづき」「新高」の管理がおろそかにならないよう、手抜きのない管理を行って下さい。

特に「豊水」は近年みつ症の発生が多く問題となっています。手抜きのない管理を行って品質向上に努めて下さい。

表1 夏季のかん水およびマルチ処理による「みつ症」の軽減(豊水)

処理区	みつ指数 (%)				重症果率 (%)	果肉硬度 (lbs)
	0	1	2	3		
かん水区	85	10	5		5	3.8
マルチ区	55	30	15		15	3.6
無処理区	40	25	25	10	35	2.9

かん水区…7月下旬より収穫期まで7日毎10mm程度のかん水
 マルチ区…6月より麦わらマルチ
 重症果率…みつ指数2以上の割合



豊水のみつ症対策

最近、特に発生が多くなっており、根本的には土作りを中心とした樹勢強化が必要ですが、発生を軽度にするための最終的な対策はかん水です。

みつ症は幼果期の高温乾燥、七月の低温、低日照、八月以降の高温乾燥によりもつとも発生が多くなると言われています。梅雨明け一週間後から定期的なかん水を行って下さい(表一)。

根の保護

梅雨時期の根傷みは収穫前の乾燥害を助長し多発の原因となります。「幸水」と同じように敷きワラとマルチの設置を行い根傷みを防止します。



また、みつ症の発生を軽減するためにも梅雨明け後のかん水が重要になります。実際、昨年夏季のかん水を実施したところ「豊水」のみつ症の発生が軽減されました。

「王秋」では夏場の散水によって、生理障害である果肉褐変が軽減されています。

新梢管理

豊水は七月中旬～八月上旬に新梢伸長が旺盛になります。幸水同様に新梢管理をしっかり行います。

カルシウム剤の散布七月以降八月上旬までに最低二回は散布し、果実の体質強化を図って下さい。

施肥はチッ素中心に考えがちですが、ナシ樹はチッ素同等以上にカルシウムを必要とします。



表2 あきづきおよび幸水の果実横径肥大量 (mm)

品種	5/2~14	~5/23	~6/4	~6/14	~6/25	~7/4	~7/15	~7/23	~8/2	~8/23	~9/4
あきづき	5.2	4.4	3.2	2.7	6.8	10.8	10.7	11.4	8.5	7.9	5.1
幸水	4.8	5	5	4.6	10.6	10.8	10.3	8.7	6.5	—	—

表3 あきづきの収穫時期別果実品質調査 (2004)

収穫時期	一果重平均 (g)	硬度 (lbs)	糖度 (Brix)	pH	果実比重	変形程度*	開花期からの平均気温積算(°C)
9月 4日	579.5 b	4.5 a	11.8 b	4.92	1.008 a	1.03	3462.0
9月 7日	608.6ab	4.2 a	12.4 a	4.98	1.002 a	1.02	3542.6
9月11日	622.5 a	4.3 a	12.8 a	5.02	0.997 a	1.02	3640.0
9月17日	618.1 a	3.6 b	12.7 a	5.01	0.985 a	1.04	3782.8
F検定**	*	*	*	n.s	*	n.s	—

*変形程度：長横径／短横径

**F検定は5%で有意、n.s：有意差なし多重比較はTukey検定異なる英文字間で有意

「あきづき」は成
熟期の前から果皮
の着色が良好なた
め、収穫期の判断
が難しい品種です。
表で示すように成
熟期まで糖度は
上がりますが、過
熟になると生理障
害の発生が心配さ
れます。開花期か
らの平均気温の積
算で三六五〇℃
程度が成熟期と
みられ、一指標と
して考えられます
(表三)。

収穫時期の判断

「幸水」よりも一〇日程度遅く
肥大のピークがあり、「幸水」同様
に一月間継続し
ます(表二)。

あきづきの収穫管理

果実肥大パターン

土中への計画的な投入が望まれます。

収穫方法

「あきづき」は一樹内の品質のパ
ラツキが少ない品種であるため、収
穫期間が短くなります。樹の周囲
や短果枝着生果実から収穫を行っ
ていき、二回程度で収穫を終える
ようにします。

生理障害の発生について

「みつ症」についてはこれまで「豊
水」で多発生した年でもほとんど
発生していません。「あきづき」は
収穫時期が遅くなるほど糖度は
高くなりますが、過熟になり過ぎ
ると果肉細胞の水分が収奪する
「スポンジ果」が発生しやすくなる
ため、適熟果の収穫に心掛けてく
ださい。また、高接ぎした枝に着果
した果実では、スポット的に果肉が
壊死した症状がみられる場合があ
ります(写真二)。



写真2 果肉に褐変(スポット的な壊死)が現れた果実

土壌改良の考え方

品種によって土壌改良の時期に
ついては異なりますが、先にも述べ
たように幸水では九月から一〇月
にかけてが伸長時期であり、断根
を伴うような土壌改良を行うの
は秋根が伸長する前に行う必要
があります。

一〇月以降、浅い部分での中耕
は問題ありませんが、深耕はせつ
かしく伸長した根を切り落とすこ
とになり、行っただけの効果が期待
できません。

土壌改良の方法はさまざまあ
りますが、樹幹から一・五〜二・〇
m程度の位置を中心に行って下さい。
掘り上げた土にピートモスやみ
殻くん炭を二〜三割、リンやカルシ
ウム資材も同時に埋め戻すことに
よって、より発根を促進し、根量が
増加します。

堆肥については熟度によっては発
根を阻害するため温度の高い九月
上旬にスポット的に地表面に施し
て下さい。

そのことよって保湿、保温効果
を高め、発根を助長します。また、
翌年には深耕時に土中に埋め戻し
改良材として利用できます。